

SHIRAKOBATO

# しらこぼと



1999. 7

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 183

日本野鳥の会 埼玉県支部

## ひさしぶりの舢倉島

山部直喜（三郷市）

5月の連休にあの舢倉島に行ってきました。私は10年ぶり、大坂さんは初めての探鳥行でした。そこで私は10年前と比べての驚きを、そして大坂さんは舢倉島の楽しさを中心にレポートしました。

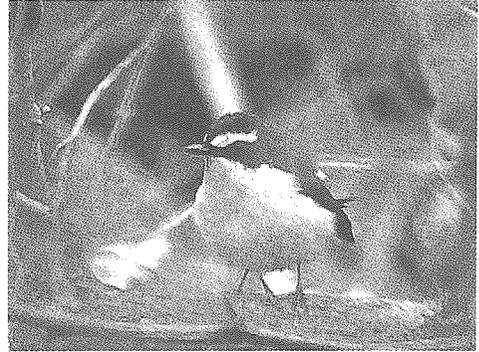
まず驚いたことは、公衆の水洗便所ができていたことです。しかも男子用、女子用と別別の立派な建物です。舢倉島は石川県輪島市の沖約50kmに浮かぶ周囲約5kmの小さな島です。川はありません。水源も小さなものです。

なのに水洗の便所を建てた。私はその背景に、こういう地に来てても都会の便利さと快適さを求めるバードウォッチャーの存在を感じました。今回の場合も、男子用に入って来て、手洗い用の水が出ないと大声で不満をあらわにしていた婦人に出会いました。

次に驚いたことは、枝道が、それこそ背骨から伸びる肋骨のように沢山できていたことです。その道を出入りするのは、男女を問わず、一式で100万円はしそうな高級一眼レフカメラ、レンズ、三脚を携えた人々でした。

舢倉島では、道路（3頁の地図参照）から十分に観察できるし、人間がじっとしていれば、撮影も各ポイントに鳥のほうから姿を見せてくれるのです。

そして、観察用具の高級ブランド化にも驚きました。感覚としては半数以上の方がZ社



マミジロキビタキ

やR社の双眼鏡でした。現在では、最初からそういう双眼鏡を求める方も多いとは聞いていましたが驚きました。10年前なら、そういう人は鳥の研究で全国的に名の知れた人か、超ベテランの人に決まっていた。

終りに「ニューへぐら」のパンフレットから「ウォッチャーへのお願い」を引用します。

※ 舢倉島は全島保護区で、渡り鳥達の休息地・エネルギー補給区です。特に海岸岩礁地帯は特別保護区となっています。キャンプは止めましょう。

※ 島民に迷惑や不快感を与えないようにしましょう。民家の庭へ無断で入ったり、畑に足を踏み入れたりしないでください（島では屋外式トイレなので、特に迷惑をかけること）。

※ ブラインドを張ったりして草木を荒らさないでネ。

※ 珍鳥が出たといって追い回さないでネ。鳥影を見つけたら立ち止まり、鳥が動くまでじっと待って双眼鏡をのぞいてネ（そうすれば双眼鏡はいらないくらいです）。

また、

「…舢倉島は渡り鳥たちにとって一大オアシスです。彼らのために良好な環境保全に努めることが、バードウォッチャーの使命です。また舢倉島は全国のバードウォッチングマナーを身につけるための道場でもあります」という一文もありました。

舢倉島は本当に素晴らしいところです。これらのあたりまえを守って、今度は向こう10年以内にいく予定です。



ムネアカタヒバリ

## 初めての舳倉島

大坂幸男（上尾市）

5月1日から4日までの予定で待望の舳倉島行。最高のゴールデンウィーク。

一行8人が分乗して4月30日夜に川越を出発した2台の車は、一晩中走り続けてガス欠寸前になりながら、夜明けの輪島港に到着。

午前9時に輪島港を出発する船に乗る。所要時間1時間30分。船酔いを警戒して後部通路側の座席を確保したが、中間点の七ッ島を通過したころから変な気分になってきた。一刻も早く、と念じているうちになんとか舳倉島に到着。助かった。

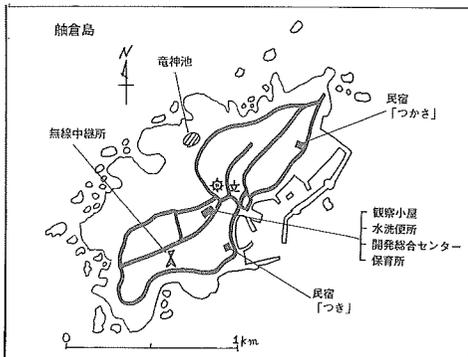
満員の民宿にとりあえず荷物だけを置いて早速バードウォッチング開始。分校グラウンドで夏羽のアトリを初めて見る。オスは首から上が真っ黒になっていた。

ヤツガシラが出たという声で、灯台に急行。いたいた。三宅島、八王子と探して歩いて見られなかったヤツガシラが1羽、目の前の芝生で、土の中に嘴をすばしっこく差し込んでいた。夢みたいだ。万歳と叫びたいくらいの感激。舳倉島に来られて、本当に良かった。

昼ごろに宿に戻ると、前の草原にホオジロハクセキレイが出た。これでまた1種増えたと思ったら、ハクセキレイの亜種なので、1種には数えないと言われてしまった。

昼食後、今度は分校の塀の上にトラツグミ。これは堂々の1種追加。

保育所裏で黄色鮮やかなキビタキに見とれた後、無線中継所に向かう途中では、ミゾゴ



ヤツガシラ

イが擬態していた。通路の水溜りでもルリビタキ、コサメビタキ、オオルリも見ることができて最高。松林にはツツドリがいた。なんて素晴らしい島だ。うれしくなる。

翌日、海岸を歩いていて、後方を歩いている同行の人たちに、はぐれないように手を振ると、逆にこちらに來いと合図あり。戻ってみると、ムネアカタヒバリが、丈の低い草の中を歩いていた。姿も名前も初めての見聞で、私にとっては珍鳥だ。

無線中継所近くのコマドリは、松の太い枯れ枝で、可愛い声でヒンカラララと囀っていた。順光できれいな姿に感動した。

舳倉は小さい島なので、探鳥コースを歩いても2キロそこそこ。同じ所を何度も通ることになるが、出現鳥がその度に入れ替わったりすることもある。新たな感動を与え続けてくれる。

天気予報によると、帰る予定日の4日は大雨で、海が大荒れになるとのこと。万一船が欠航した場合は、帰宅が6日以降になって勤務に支障が出てしまう。やむなく予定を1日早めて、3日に帰ることにした。

今回我々一行の鳥合わせでは、正味2日間で84種。そのうち私が見たのは64種。初めて見たのは、ヤツガシラ、トラツグミ、ミゾゴイ、コルリ、ムネアカタヒバリ、カラアカハラ、ヒメウ、サンショウクイ、ノゴマ、マミジロキビタキの10種。

もう1日あれば、まだまだ新しい野鳥にたくさん会えたであろうに。うしろ髪を引かれる思いで帰りの船に乗った。

(写真 海老原美夫)

# 1999年春 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

日時：1999年4月29日 9:30～11:30  
 場所：浦和市、大宮市 大久保農耕地  
 天候：くもり

1996年～1999年 春のシギ・チドリ類調査結果

この日は前線が関東沿岸に停滞しており、午前中はくもりで肌寒いくらいでしたが、支部会員21名の協力が得られました。ご苦労さまでした。

観察された種数・個体数は8種153羽で、昨年の春と比較すると、種数は変わらず、個体数も5羽少ないだけで、ほぼ同じような結果でした。

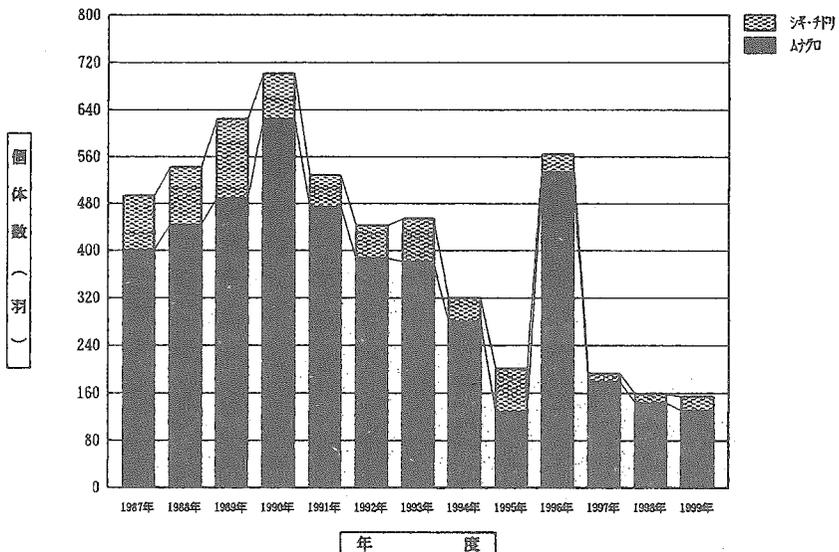
また、カウント中に荒川上空から対岸にかけて100羽以上のムナグロが確認されたとの報告がありましたが、例年カウントをしている地域と異なるので、参考記録としました。この群れを含めると当日の大久保農耕地付近では、200羽を超えるムナグロが確認されたことをつけ加えておきます。

グラフは春のカウント結果のうち、大久保農耕地におけるムナグロと、それ以外のシギ・チドリ類の個体数をまとめたものです。

(石井 智)

調査地	大久保農耕地 浦和市／大宮市			
	'96年	'97年	'98年	'99年
鳥類				
コチドリ	1	—	1	2
ムナグロ	534	178	143	130
キョウジョシギ	—	—	2	4
ハマシギ	9	—	—	—
アオアシシギ	—	—	—	7
タカブシギ	5	—	—	1
キアシシギ	—	—	2	1
イソシギ	—	—	1	—
チュウシャクシギ	3	10	2	5
タシギ	12	3	6	3
ジシギSP.	—	—	1	—
個体数合計	564	191	158	153
種数	6	3	8	8

ムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類



根いでの白馬（シロウマ）を仰いで  
松村 慎夫（大宮市）

我々を乗せ、バスは5月8日の昼下がり、まぶしい新緑を浴びながら、昔と変わらない猿倉新道を登り始めていた。窓を開け、雪解け水の音を聞きながら、学生時代にいつも同じ夜行列車でやって来た日々を、子供たちに大雪渓を見せたくて、奮発してタクシーで来た日を、そして、子育てが終わり、夫婦二人して、オリンピック向けの改築直前の八方のホテルの最後の客として訪れ、大雪渓まで足を伸ばし、冷たい水に手を浸した時などなどの、白馬を思い出しながら、まだ雪が残る猿倉小屋に到着した。カラ類のさわやかな声のなかでの休憩の時、久し振りの雪の感覚を山靴の底に感じつつ、白馬岳山頂直下の雪壁を直登する登山者の姿を双眼鏡で追い、稜線に消えた時は、思わず祝福の拍手をしてしまった。

今回の探鳥会は、姫川源流でのクロツグミ、キビタキ、ウグイスと名残りのカククリの花の出迎えに始まった。次の定麟寺では、オオルリがさえずる木の下での昼食だ。珍蝶ヒメギフチョウとキビタキの華麗な姿というデザートまでついて、言うことなし。

第一日目の締め括りは、浅間山。我々を追いかけるように飛び回るセンダイムシクイをゆっくり観察。営巢中のサンショウクイもそっと見させてもらった。ヤブサメは残念ながら声だけであったが、一人ぼっちで夕日を眺めていた？オオルリの幼鳥は印象的であった。

落倉の宿に着くと、裏でイカルが数羽、口笛を吹き出したので、脱いだばかりの靴をまたあわてて履いて外へ飛び出した。これでは何時になっても第1日が終わらない。

第2日目の早朝は5時にスタート。赤い鳥の声が聞こえないのは残念だが、ヒタキ・カラ類は総出演。オオルリが現れても見飽きたのか一同の感激は声なし。

朝食中には、窓辺の餌台にアカゲラ、アオゲラ、イカル、クロジ、ニューナイスズメの来訪が次々とあり、アカゲラなどカメラのフ



レームからはみ出すほどの至近距離で、その姿をとくと拝見した。傍らでは、カワラヒワとタダスズメが、俺たちもお忘れなく！と言っていた。

桐池高原の草地では、50の執念の目でノビタキを発見。ホオアカも現れて、誰もが満足顔だ。

リーダーの鳥数増の隠し玉、姫川第2ダムで、カモ4種をカウントし、次いで最後のスポット、柳林へ。ここは姫川と白馬岳に源を発する松川に挟まれた典型的な里山だ。雪解けにより、白馬岳の中腹に現れた、白馬岳しろうまの由来でもある苗代掻き用の馬 [=代馬]の形の岩肌を確認（この形が現われると代掻きを始める季節）。今や、まさしく、その代掻き中である。カエルが鳴き、イトトンボが舞い、イカルチドリ、ハクセキレイが虫をついばむ風景に、皆して子供の頃遊んだ田園の話に夢中となり、予定時間をオーバーしてしまった。

最後には、これで見納めとばかり、右から（白馬）乗鞍、小蓮華、白馬3山、唐松、五竜、そして鹿島槍と一つ一つ確認しながら、宿に戻るバスに乗り込んだ。

今回の探鳥会のフィナーレはクロツグミ。肉眼ではっきり見える梢の上で、声を張り上げてのお見送りとあっては、なかなかバスに乗ることが出来ない。バスがやっと動き出したと思ったら、今度はシロハラが散歩中？。まだまだ観察は終りそうもないが、白馬にさよならを告げ、五竜の峰が山陰に隠れてから、次回にはぜひ赤い鳥にもご挨拶がしたいと書き込み、やっと観察メモ帳を閉じた。今回の観察種は63、最高記録のようだ。



# 野鳥情報

大宮市日進1丁目 ◇4月14日、ヤブサメ1羽、落鳥。ガラスに衝突したようだ。体重約10g。4月20日、シロハラ1羽。4月22日、ビンズイ2羽。4月27日、アカハラ2羽（森本國夫）。

行田市埼玉神社 ◇4月16日午前9時15分、神社裏でコルリさえず（逸見嶮）。

皆野町美の山公園 ◇4月17日、センダイムシクイ3羽、新芽の出始めの木でさかんにさえずっていた。コサメビタキ1羽、木々の梢を飛び回るが、あまり遠くへは行かずに同じような枝を渡り歩いているようだった。アカゲラ、カケス、ヤマガラ。5月5日、コサメビタキ、センダイムシクイ、ヤブサメ、クロツグミ♂1羽、アカハラ1羽、クロジ♀1羽、イカル1羽（後藤康夫・喜久子）。

岩槻市元荒川 ◇4月18日午前9時15分頃、岩槻橋下流にカナダガン4羽飛来。人に馴れているらしく、午前中は近くで魚釣りをしていた人から餌をもらって食べたりしていた。午後には橋の上流に移動。雨天になったが、川辺で水草の茎や根等を食べながら夕方までいた。翌日には、飛び立った後だった（中島康夫、郁夫、中村榮男）。

志木市荒川 ◇4月18日、秋ヶ瀬取水堰西側の水を張った田んぼで、コアジサシ5羽飛来。普段は見かけないので渡りの途中とされます。5月9日、ムナグロ17羽（志賀敢）。

蓮田市黒浜 ◇4月26日、水田に降りている



シラコバト（新井勇吉）

ムナグロの群れの近くの畦で、チュウシャクシギ1羽。5月6日、まだ田植えのすんでいない田んぼで、ムナグロ約130羽、その群れの中に、キョウジョシギ2羽。5月10日、オグロシギ2羽。頭部、嘴、胸部、腹部の色は凶鑑の幼鳥の通りで、美しいシギだなと見惚れてしまいました（道祖土修一）。

東秩父村二本木峠～皇鈴山 ◇4月28日、クロツグミ、ウグイス、ホオジロのさえずり。すっかりガスに包まれてしまい、鳥の姿はほとんど見えなかったが、たった一人の山道ににぎやかな応援歌。白いバールの中から、ひょっこりキツネも出て来た。翌日には、同じコースでリスにも会えた。キジ、アオゲラ、アカゲラ、コゲラ、ヤブサメ、センダイムシクイ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ（中村豊己）。

浦和市秋ヶ瀬 ◇4月30日、ピクニックの森でシメ2羽。近くに何やら変わった鳥が1羽。よく見ると、何とサンショウクイ！初めてなので興奮。木の高い枝の若葉の中を見え隠れしていたが、♀であることを確認できた。「ヒーリーリー、ヒリリ」という声も数回聞いた（高田範之）。◇5月13日、A区の水田でムナグロ47羽。B区でチュウシャクシギ3羽、ヨシゴイ1羽（倉林宗太郎）。

坂戸市城山 ◇5月2日午後12時35分、オオルリ♂1羽。午後3時15分、キビタキ♂1羽。どちらも林縁部の木の枝にとまって美しい声でさえずっていた（増尾隆）。

名栗村白谷沢～棒ノ折山 ◇5月2日、白谷沢でミソサザイが元気。オオルリは梢の先で高らかに存在をアピール。ツツドリ、クロツグミ、ヤブサメ、ウグイス、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キビタキ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ（中村豊己）。

川本町荒川明戸堰上流 ◇5月3日、キアシシギ1羽、イカルチドリ1羽、キンクロハジロ17羽、コガモ30羽、マガモ2羽、オオヨシキリ（後藤康夫）。

熊谷市大麻生 ◇5月4日、センダイムシク

イ、オオヨシキリ、セッカ、カオグログガビ  
チョウ（後藤康夫・喜久子）。

浦和市芝原 ◇5月6日午後8時頃、アオバ  
ズク1羽（大武百合子）。

名栗村妻坂峠～大持山、小持山 ◇5月8  
日、妻坂峠からの急登、コガラの大合唱に  
包まれる。バックはツツドリ、ジュウイ  
チ、センダイムシクイの声。山頂では、ウ  
ソとイカル。新緑のブナ林ではアカゲラ  
（中村豊己）。

戸田市道満彩湖 ◇5月11日、管理釣場でサ  
サゴイ2羽。5月14日、グリーンパークの  
中土手北のグラウンドでムナグロ19羽。5月  
18日、管理橋そばの林でカッコウ1羽。5  
月21日、西側の池のそばの枯れ木でツツ  
ドリ1羽（倉林宗太郎）。

熊谷市荒川公園 ◇5月12日、エゾムシクイ  
がさえずっていた（森本國夫）。

東松山市大谷 ◇5月12日、午前6時30分  
頃、ホトトギス初鳴き。5月15日、アマサ  
ギ1羽、オオタカ2羽、セッカ、オオヨシ  
キリ（中村豊己）。

熊谷市万吉 ◇5月14日、自宅で深夜アオバ  
ズクの声を聞いた（森本國夫）。

狭山市広瀬神社 ◇5月17日午前9時30分、  
境内の椎の木の古木でアオバズク1羽（山  
影昭三他2名）。

浦和市大間木 ◇5月18日午前7時頃、カッ  
コウ1羽（大武百合子）。

鷲宮町弦代公園 ◇5月20日、コアジサシ1  
羽、ダイビング数回。カワラヒワのヒナ2  
羽、カルガモ5羽。コサギ1羽上空通過。  
ムクドリ数羽、サクラノボの実をさかんに  
ついばんでいた（石井絢子）。



ヤマガラ（新井 勇吉）

栗橋町島川橋付近 ◇5月20日、ヒバリの親  
子、ゴイサギ1羽、シラコバト2羽（石井  
絢子）。

坂戸市浅羽野 ◇5月20日、土屋神社でアオ  
バズク1羽、昼間なので金色に輝くアイリ  
ングをよく見ることができた（北村隆、増  
尾隆・節子）。

坂戸市高麗川城山橋上流 ◇5月21日、ヤマ  
セミ♂1羽（増尾隆）。

寄居町風布～中間平 ◇5月22日、サンコウ  
チョウ♂1羽、10m程先の枝にとまり、わ  
ずか5、6秒だったが静止してくれた。さ  
えずりは、かなり長い間聞こえていた。ノ  
スリ、イカル、カケス各1羽。ホトトギス  
初鳴き（後藤康夫）。

嵐山町笛吹峠 ◇5月23日、キビタキがさえ  
ずっていたが、姿は確認できなかった。ホ  
トトギス数羽のさえずりが確認できた。イ  
カル、ウグイス、キジ、コジュケイ（後藤  
康夫）。

熊谷市荒川 ◇5月29日、熊谷大橋～荒川大  
橋間でダイサギ1羽、キアシシギ3羽、コ  
チドリ3羽、イカルチドリ4羽（後藤康  
夫）。

## 表紙の写真

### ミゾゴイ（コウノトリ目サギ科）

今年も5月の連休に、渡り鳥たちのオアシ  
ス舩倉島に行ってきました。渡り鳥ならぬ写  
真トリ（撮り）たちが数多く渡来していまし  
た。ミゾゴイが見える横道には、カメラの群  
れ。そういう所は苦手なので、人の少ない分  
校の庭でアトリやマヒワを撮影していたら、

ふわりとミゾゴイの方から舞い降りてきて、  
ポーズをとってくれました。縞の合羽に三度  
笠のムード。刀を差すと旅回りの役者にも見  
えそうな、いかにも日本的な変な鳥です（日  
本でのみ繁殖）。渡り鳥たちと、島の人たち  
に感謝。 島田恵司（鴻巣市）

# 行事あんない



(何森 要)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。夏期は帽子、飲み物必携。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

## 上尾市・八坂神社探鳥会 (夕方)

期日：7月3日(土)

詳細は6月号をご覧ください。

## 群馬県板倉町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：7月4日(日)

詳細は6月号をご覧ください。

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月11日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車。

担当：和田、森本、中島(章)、石井(博)、倉崎、松本、中里、高橋、後藤

見どころ：暑さが厳しくなってきました。例年、出現鳥が少なくなる時期ですが、水辺の鳥たちは健在です。私達も負けずにササゴイ、バン、カイツブリ等のファミリーを探してみましよう。日陰の少ないところです。

## 浦和市三空地区定例探鳥会

期日：7月18日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、浦和市立郷土博物館前。

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、伊藤、渡辺(周)、笠原、倉林、若林、兼元、

森、清水、前澤、松堂

見どころ：1年中で一番暑い季節。鳥なんかないのじゃないの！ という声が聞こえてきますが、梅雨明けの見沼たんぼを歩くのも楽しい。芝川や代用水の季節の移り変わりを感じてみよう。もちろん鳥たちだって待っていますよ。

## 清川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月18日(日)

集合：午前9時40分、森林公園南口前。

交通：東武東上線川越8:37→森林公園駅下車、森林公園南口行き9:17発バスに乗車、終点下車。

担当：佐久間、藤掛、内藤、青山、島田、喜多、後藤

見どころ：暑い夏がまた巡ってきました。子育てを終えた鳥たちは今夏休みの最中です。でもここではオオムラサキ、ヤマユリなどの蝶や草花が皆様を待っています。

## 狭山市・入間川定例探鳥会

期日：7月25日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:42発、または所沢8:36発に乗車。

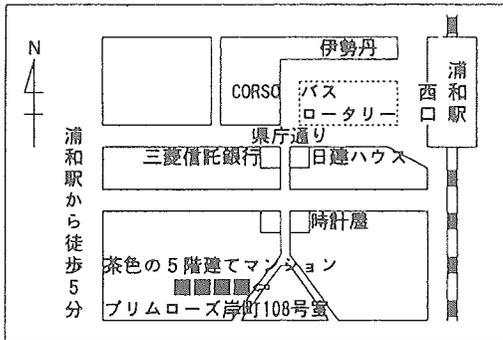
担当：長谷部、高草木、藤掛、石井(幸)、小野、中村(祐)、山本、久保田、上野

見どころ：今年巣立ったシジュウカラやセキ

レイたちは、元気に育ったかな。夏草の勢いと暑さに負けずに鳥を見よう。体調を整えて参加してください。

**『しらこぼと』袋づめの会**

とき：7月31日（土）1時～2時ごろ  
 会場：支部事務局108号室  
 案内：野山に飛び出したい最高の季節。夏の計画をたてる時には、袋づめの会もお忘れなく！『しらこぼと』も安心して飛び出せます。



**北本市 石戸宿定例探鳥会**

期日：8月1日（日）  
 集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。  
 交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前より北里メディカルセンター病院行きバス8:40発にて、自然観察公園前下車。  
 担当：岡安、榎本、内藤、大坂、立岩、川那部、永野（安）、永野（京）、島田、高（剋）、高（文）、山田、今井  
 見どころ：今月のキャッチフレーズは「トリ仲間、石戸宿で暑中見舞いのご挨拶」。鳥見はもちろん、ゴミ拾いも予定しております。ご協力をお願いします。汗をかいた後は持ち寄りの写真やビデオ（8分以内に編集のこと）を楽しみましょう。

いやぁー...これにしても...カケスの羽はきいた!



(五十嵐貴大)

**今さら聞けない質問コーナー**

Q：「日本野鳥の会埼玉県支部」と「財団法人埼玉県野鳥の会」に関する回答ありがとうございます。関連したことですが、平成元年（1989年）3月に発行された財団法人埼玉県野鳥の会編集『バードランドさいたまー埼玉の野鳥』の「埼玉県産鳥類目録」と、日本野鳥の会埼玉県支部の「埼玉県野鳥チェックリスト」の記載種の間には差異が見られます。どうい違いなのでしょう。か。（上尾市・大友慎也）  
 A：当支部の「野鳥チェックリスト」は、野鳥記録委員会が作成する「埼玉県内鳥類リスト」をもとに、探鳥会用のチェックリストとしたものです。

「埼玉県内鳥類リスト」は、それまで研究部が作成していたものを、1992年に記録委員会が引き継ぎ作成を続けているものですが、当支部で「リスト」を作成し始める時に議論になったのが、例えば江戸時代の文献にのみ記載されている種などが、現在の県内の環境を考えるのにどれほどの意味を持ち得るか、ということです。

ここで注目されたのが、埼玉県教育委員会が1978年3月に発行した『埼玉県動物誌』です。これには、文献資料を含めたそれまでのすべての野鳥が掲載されています。そこで、当支部は、これを便宜的な区切りとして、それ以降のデータで、新たな、現在の県内の環境とより関係が深いリストを作り直す事にしたわけです。

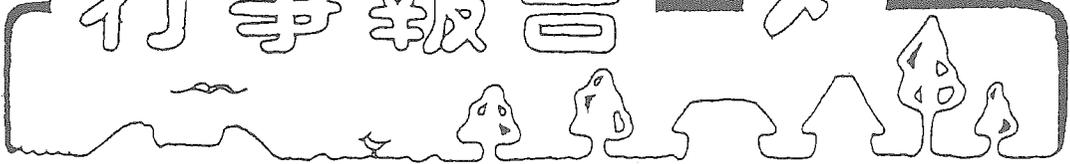
財団法人埼玉県野鳥の会（現・財団法人埼玉県生態系保護協会）は『埼玉県動物誌』の流れで「埼玉県産鳥類目録」を作成し続けているわけです。その後の種の追加についても、当支部と姿勢に違いがあります。

当支部は、直接的な資料が入手できなくても、信頼すべき団体・個人が信頼すべき媒体に発表した種は、検討した上で「リスト」に追加しますが、当支部が支部報や新聞などで発表しても、自身直接的な資料が入手できない時は「目録」に追加されないようです。

その結果、「目録」にはトキやクロトキまでが掲載されている一方、「リスト」にある種が掲載されていない場合もあるというわけです。

(記録委員会)

# 行事報告



3月27日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 14人

倉林宗太郎、後藤康夫、佐久間博文、篠原東彦、島田恵司、島田沙織里、志村佐治、鈴木紀雄、鈴木庸子、納谷美月、藤掛保司、藤野富代、松村禎夫、渡辺泰子

3月28日(日) 長瀬町 宝登山

参加: 48人 天気: 晴

トビ キジ キジバト アオゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス キウイタダキ エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 戻り寒波の影響で桜のつばみも固かったが、上空をツバメ2種が滑空するなど、春の訪れを実感する探鳥会となった。昨年のようなVIPは出現せず、それを期待して参加なさったらしい方々の足取りはやや重そうだった。ただ、Aリーダーのパソコンによる野鳥の識別(重いのに御苦労様。感謝です。)やOリーダーによる早春に花を付ける樹木の識別などなど、充実した内容だったと思う。(小池一男)

3月28日(日) 行田市 さきたま古墳公園

参加: 40人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ チョウゲンボウ コジュケイ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 春とは名ばかり。期待していた桜のつばみもまだ固く、ツバメもとうとう現われず。寒風吹きすさぶ中、ヤマガラの姿に喜。チョウゲンボウに喜々。鳥合わせの後にアマツバメがちょこっと顔出ししてくれた。陽だまりのタンポポにほのぼの。あー

寒かったなー。

(榎本秀和)

3月28日(日) 狭山市 入間川

参加: 44人 天気: 曇

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ハシビロガモ トビ チョウゲンボウ コジュケイ コチドリ イカルチドリ イソシギ キジバト アオゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 95年11月から前回まで18回連続出場のカワセミが見られなかった。よほど相性の悪い人がいたのでは? カワセミに代って注目を集めたのは夏羽のカシラダカ。地味な鳥だが、夏羽を見て好きになった人もいるんじゃないかな。(長谷部謙二)

4月4日(日) 北本市 石戸宿

参加: 60人 天気: 晴

カイツブリ カワウ マガモ コガモ コジュケイ キジ バン キジバト アオゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 幸運にもエドヒガンザクラ、桜堤のソメイヨシノ、東光寺のカバザクラが同時開花して、お花見探鳥会としては大成功だった。子供公園のカタクリも遠くから観察した。高尾の池の柳の木でベニマシコの群れが見られ、盛り上がった。双子ハンノキ近くでは、ウグイスも姿を見せてくれた。バンも幾度も出現してくれた。

(岡安征也)

4月4日(日) 浦和市 民家園周辺

参加: 60人 天気: 曇

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ  
 コガモ オオタカ チョウゲンボウ コジュケイ  
 キジ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ  
 ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ  
 ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロ  
 ハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ  
 ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン  
 カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ  
 ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 新聞や  
 市報に出るためか、初めての人も沢山参加して  
 いただいています。その影響かどうか、教習所の金網  
 の向こうのコサギを見ていたら、金網の上に何か  
 青いものが。「ウン?...カワセミだ！」や、オオ  
 タカとチョウゲンボウとタカspの空中バトル。ア  
 カハラ、シロハラが出た後に芝川でアカゲラなど  
 など(キジが何回も出るし)。サービスいいこと!  
 おっかしーな。下見のときは何もいなかったのに  
 なー。(手塚正義)

4月11日(日) 熊谷市 大麻生  
 雨のため中止。

4月18日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地  
 参加: 41人 天気: 曇

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイ  
 サギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コ  
 ガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ  
 ハシビロガモ スズガモ トビ オオタカ ノス  
 リ チョウゲンボウ コチドリ セグロカモメ  
 コアジサシ シラコバト キジバト ヒバリ ツ  
 バメ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ  
 アカハラ シロハラ ツグミ ホオジロ オオジ  
 ユリン シメ スズメ コムクドリ ムクドリ  
 オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種)  
 雨具を手にしての集合で心配したお天気も何とか  
 持ちこたえた。谷中湖には思った以上の残りカモ  
 がおり、水鳥だけでも14種。夏羽に換ったカンム  
 リカイツブリもゆっくり観察しながら、野焼き後  
 の谷中村跡へと向かう。屋敷林にコムクドリや尾  
 羽の抜けたアカハラを見つけ、終わってみれば41  
 種と鳥も人も同数の参加だった。(橋口長和)

4月18日(日) 浦和市 三室地区  
 参加: 56人 天気: 曇

カワウ ゴイサギ コサギ アオサギ カルガモ  
 コガモ チョウゲンボウ コジュケイ キジ バ

ン コチドリ イソシギ タシギ キジバト カ  
 ワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロ  
 セキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス  
 シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ  
 スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガ  
 ラス (31種) 今年は桜が長く咲いていたが、今は  
 葉桜の緑がまぶしい。朝から雨の予想であったが、  
 参加者の行いのお蔭で?ちょうど探鳥会の終了ま  
 で天気もった。鳥はチョウゲンボウがゆっくり  
 上空を飛翔。カワセミやキジもきれいな姿を見せ  
 てくれた。コチドリやツバメが飛び、探鳥会の間  
 絶え間なくヒバリが空高く囀っていた。

(楠見邦博)

4月24日(土) 『しらこぼと』袋づめの会  
 ボランティア: 16人

赤坂忠一、荒木恒夫、江浪功、海老原教子、大坂  
 幸男、尾崎甲四郎、倉林宗太郎、佐久間博文、篠  
 原東彦、島田恵司、島田沙織里、玉井正晴、藤掛  
 保司、増尾隆、松村禎夫、百瀬修 曇 いつも有難  
 うございます。常連の多い袋づめの会です。

4月25日(日) 東松山市 物見山  
 参加: 8人 天気: 曇

アオサギ カルガモ コジュケイ キジ キジバ  
 ト コゲラ ツバメ ハクセキレイ セグロセキ  
 レイ ビンズイ ヒヨドリ ツグミ ウグイス  
 シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワ  
 ラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハ  
 シブトガラス (22種) 雨のため、各リーダーに連  
 絡をとり、中止をほぼ決定した形で物見山に行っ  
 たが、幸いにも雨があがり、参加者8名で実施。  
 松林に入るとビンズイが姿を見せ、今日が出るか  
 なと思いつつ歩を進めたが、思ったとおりになら  
 ず、鳥影は少なかった。夜来の雨で岩殿観音への  
 裏山道は水があふれ流れ落ち、通行不能を判断し  
 てコースを変えた。雨上がりのため新緑が鮮やか  
 で、気分爽快。山つつじも咲き、キジが小高い草  
 地に姿を見せてくれ、少ない出現鳥の探鳥会だっ  
 たが、楽しい半日だった。(内藤義雄)

4月25日(日) 浦和市 秋ヶ瀬大久保農耕地  
 雨のため中止。

4月25日(日) 春日部市 内牧公園  
 雨のため中止。

連絡中長

●支部ホームページ・その後

昨年5月に、橋口長和幹事が担当してオープンして以来、『野鳥』『バーダー』各誌で紹介される等、好調に継続しています。

今年6月に支部備品として新たなワープロを購入したのを機に、従来橋口幹事にお任せしっぱなしだったのを、事務局内部でもアクセスできるようになりました。

そこで早速気がついたことがひとつ。本誌奥付に毎号掲載していたアドレスの「jp」の後ろに「.」がついていましたが、これは誤植で、「.」がないのが正しいのです。「.」を入れてもアクセスできるので、今まで苦情もなく気がつきませんでした。今月号から訂正することになりました。

6月12日現在までのアクセス数は、4,808件。1日平均12件近い計算になります。

●鳥類生息分布全国調査・その後

昨年2月号本欄でご紹介した種の多様性調査—鳥類生息分布調査は、当支部研究部も参加して順調に続けられています。

今年5月13日付けで本部研究センターから届いた中間報告によると、昨年実施した調査では全国84支部と自然保護関係9団体が協力して、1,024人の調査員が1,563コースを調査実施。その結果、前回の20年前と比較して次のような変化が明らかになってきています。

繁殖確実記録激減=ミゾゴイ、ウズラ、ヒクイナ、チゴモズ、アカモズなど。

繁殖確実記録減少=イヌワシ、エゾライチョウ、コジュケイ、カワガラス、シマアオジなど。

繁殖確実記録増加=カワウ、アオサギ、ミサゴなど。

新たに繁殖確実記録=ガビチョウ、ソウシチョウ、シマキンバラなど。

減少の可能性があるがなんとも言えない=ジュウイチ、カッコウ、ツツドリ、ホトトギスなど。

増加の可能性があるがなんとも言えない=ドバトなど。

2001年までに全国約2,360コースを調査し、2002年の調査終了後に、本格的に取りまとめる予定です。

●会員の普及活動

5月23日(日)坂戸市高麗川鶴舞地区で、ふるさとの川高麗川を考える会(旧称・鶴舞まちづくり委員会高麗川河川改修勉強会)主催の第7回野鳥観察会が開催され、16名の参加者に対して支部会員の黒木昭雄・坂口和子・坂口稔・増尾節子・増尾隆(50音順)の5氏が指導に当たり、28種を観察しました。

●7月の事務局 土曜と日曜の予定

17日(土)編集会議、研究部会議。

18日(日)役員会議。

24日(土)校正作業。

31日(土)袋づめの会。

●会員数は

6月1日現在3,074人です。

活動報告

5月15日(土)『しらこぼと』6月号編集作業(原稿の執筆・整理、写真・カットの選択、各ページ割り付け、その他)。

同日 研究部会議(モニタリング調査として武蔵丘陵森林公園で5月22日植生調査、5月29日鳥類調査を実施する件、その他)。

5月16日(日)役員会議(司会:浅見健一、次回関東ブロック協議会への提案議題・次期支部役員・総会準備・その他)。

5月22日(土)6月号校正作業(大坂幸男、海老原美夫、喜多峻次、藤掛保司)。

5月31日(月)6月号発送(倉林宗太郎)。

編集後記

地域の自然観察会に一般参加。初夏の田んぼの生物を観察してきた。ドブシジミ、アメリカカブトエビ、ホウネンエビ、ミゾコウジュ……。網を持ち、長靴をはき、畦道を走り回って一日が暮れた。すっかり子供のころに戻っていた。(山部)

『しらこぼと』1999年7月号(第183号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)  
発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460  
〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130  
インターネットホームページ <http://www.bekkoame.or.jp/ro/wbsj-saitm/>

住所変更・退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階  
(財)日本野鳥の会会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事は上記ホームページに転載されることがあります。本誌から、またはホームページからの無断転載は、かたくお断わりします) 再生紙使用